



私たちは返品を笑顔でお受けします

《経営理念》

カーメンテナンスサポート業を通して安心と信頼の輪を広げる

NO. 182 平成 30 年 9 月号

<http://kotohira-motors.com>



## 9月度顧客満足特価商品

### タイヤ交換に最適な強力エアインパクトレンチ



**ツインハンマータイプだから、作業効率バツカン**

ツインハンマーで強力タイプなので、ボルトの締め作業がラクラクに作業できます。

1.5kgの軽量だから、作業負担も少なくて済みます。

使い慣れたコンパクトサイズで、取柄もフックで作業できます。

ヨコガワブランド

- 【仕様】
- サイズ: 130x175x45mm
  - 重量: 1.5kg
  - 動力源: 外装: 12.7mm
  - 最大トルク: 588N・m
  - 最高回転数: 10000rpm
  - 回転調整: 正転3段・逆転3段
  - 使用空気圧: 0.62Mpa
  - 最大空気消費量: 91.4L/min
  - ケーブルサイズ: 1/4

12.7角 小型エアインパクト  
レンチ(ツインハンマー)

定価 21780

43% OFF!

通常価格: 17,800円が

税別 **10,000円**

### セキュリティ対策

### ETC車載器 30年に注意 初代ビーコンも22年に停波



車載器の一部が22年から使えなくなる。国土交通省は2022年度いっぱいまで初代電波ビーコン(受発信器)の路線設備を停波。30年にはETC車載器のセキュリティ規格を厳しくする。実施はまだ先だが「ETC2.0」車載器の一部も使えなくなるため、メーカーは新規格への移行を始めた。販売店でも商品説明時に注意が必要だ。

国交省の電波ビーコンはAVIC(道路交通情報通信システム)の一環として1996年に高速道路上で運用を始めた。国交省はその後、情報提供とETC機能を一体化した「ETC2.0」(旧ITSスポット)を開始し、11年から運用開始。ETC2.0の車載器の累計セットアップ数(今年4月末)は約272万台だ。

約3千基ある初代の電波ビーコン路側機は老朽化が進んでおり、すでに9割が設置から15年以上経った。国交省はジャンクション(JCT)手前などをのぞき、故障して修復にコストがかさむ場合は更新しない方針を打ち出しており「今後、正常に稼働する路側機が激減することが予測される」(道路局)という。

国交省はETCのセキュリティ規格も厳しくする。デジタル技術の進化に伴い、改ざんなどの危険性が高まりつつあるためだ。概に新規格は決まっており、メーカーもETC2.0を中心に一部機種で対応を始めた。新規格に対応しているかどうかは車載器管理番号の冒頭数字や車載器の識別マーク「●●●」=写真上=で判別できる。

新規格に準拠していない場合、ETC2.0も含めて車載器が30年に使えなくなる。国交省は「メーカーとも連携し、混乱のない形で交換を促していく」(同)と話している。切り替え予定は12年後だが、セキュリティ上、問題が発生した場合は変更時期が早まる可能性もある。旧規格対応品の価格が下がることも考えられるが、切り替え後は使えなくなる。30年が近づいてつれて駆け込み需要も見込まれ、混乱を避けるためにも今のうちから丁寧な商品説明が求められそうだ。